Web 版

札聾だより

http://www.sappororo.hokkaido-c.ed.jp

学校だより　第１号
2026年(令和８年)４月８日発行
発　　行　北海道札幌聾学校
校　　長　菅野　弘尊
TEL 011-716-2979
FAX 011-758-7617

学校HPはこちら

「キャッチボール」を大切に

校長　菅　野　弘　尊

令和８年度、全校幼児児童生徒 52 名でスタートを切りました。昨年度は、年度当初や途中からの転入・新入生が６名もいた珍しい年度でした。新たに札幌聾学校の一員となった子どもたちは、先輩の子どもたちに温かく迎えられて少しずつ学校に慣れ、手話や音声を使い言葉を増やし気持ちをふくらませながら生き生きと目を輝かせて学校生活を送ってくれました。

その成長の元となっているのは、子ども自身の頑張りや、手前みそになりますが先生たちの工夫、そして保護者や地域の皆様の支えです。学校と御家庭の連携のためのやりとり、先生方の日々の話し合い、御意見やボランティア協力をいただける地域の方など、どれもが子どもたちの力になっています。そこでは、学校からのお願い、御家庭からの要望や質問、地域からのアドバイス等々、たくさんのやりとりがあります。そのやりとりはキャッチボールに似ており、一見簡単なようではありますが実は難しいものだと感じます。

投げる側が相手の様子を見ずにボールを投げつけたのでは、キャッチすることはできません。優しく投げてくれても、受け手に捕る気が無くよそ見をしていては、落ちてしまいます。一方的にボールを投げ続けてもボールは戻ってきません。お互いにキャッチボールをしたい・続けたいという気持ちがあれば、相手の力に合わせて取りやすい球を投げますし、捕ってもらった嬉しさやキャッチできた喜びが広がります。何往復もするうちに、投げるスピードは上がり捕れる範囲も広がっていきます。

学校でも、御家庭や地域の方、子どもたちとのやりとり、「キャッチボール」を上手に続けたいと思います。時にはすぐにボールを返せないことや思ったところに投げられないことがあるかもしれませんが、もう一度投げ直そう・次はもっと上手に捕るぞ、という姿勢を大切にします。

これはコミュニケーションそのものにも通じます。お互いに伝えたい、分かりたいという気持ちがベースになります。物事を教えてあげた量や行った場所・与えた物の多さ、手話や音声をどれだけ上手に使ったかということだけではなく、いかに子どもの様子や気持ちに合わせ、大人が向き合ってあげられたかが重要です。素直で元気な子どもたちにも、子どもたちの人格形成に必要な、わがまま期や反抗期、思春期は必ずやってきます。学校と御家庭での様子が大きく異なる時期があるかもしれません。御家庭と学校のやりとり、そして子どもとのやりとりを続け、子どもたちの次の笑顔と成長につなげたいと思います。

子どもたちや保護者の皆様にとって良いキャッチボール相手でいられるよう、今年度も職員一同努力してまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

参観日のお知らせ

日にち：４月２４日（金）

- 詳細につきましては、配付いたしましたプリントを御覧ください。
- 各自、スリッパ等の上履きを御持参ください。
- 幼稚部３歳から小学部１年生は 13 時２０分に下校、小学部２年生以降は通常授業となります。

4月・5月の行事予定は、ホームページをご覧ください。